



2025(令和7)年 11 月

なぎなた通信 第1号

発行責任者 会長

東風平中の掲示物より

小さいことほど
丁寧に。当たり前
のことほど真剣に。

第28回わくわくなぎなたフェスティバル リズムなぎなた発表会



去る10月12日(日)に第28回沖縄県スポーツ・レクリエーション祭の一貫として、私たちなぎなた連盟は、「わくわくなぎなたフェスティバル」を県立武道館アリーナで開催しました。

今年度の大会は、石田丘保育園の幼児をはじめ、スポーツ少年団チームや中学校の部活動生など、5団体、67名の参加のもと、盛況のうちに終了することができました。

イベント成功の最大の要因は、保育園や小・中学校の園長・校長が引率者をころよく派遣して頂いたり、保護者の皆様が送迎に係るご苦勞を引き受けて頂いたおかげです。役員一同あらためて感謝申し上げます。

また、指導の先生方や保護者の皆様が日々の稽古の中で、子供たちと一緒にリズムなぎなたの振付を考えたり、演技指導を丁寧に行っていただきました。

そのおかげで、普段のなぎなた大会とは一味違うイベントとなりました。好きな曲にあわせて振付を行い、しかけ・おうじの基本動作を組合せて創った演舞で、各クラブとも個性豊かな演目となりました。

さらに、リズムなぎなたの発表の後に、なぎなた連盟強化部の先生方の指導のもと、基本動作やしかけ・応じの練習を行う「錬成大会」を行いました。将来のなぎなた界のエースになる幼児・児童・生徒が高校生の手ほどきを受けながら、真剣に練習している様子は、頼もしい限りでした。なかでも、多くの観衆が、2歳児のコミカルな可愛らしい所作に目を引き付けられていました。

そして、今年度は、昨年までと違って、初心者向けの「なぎなた体験会」を行いました。体験してみたいちびっこや小・中学生、保護者の皆さんなど、多くの参加があり、たいへん盛り上がりしました。(瀬底副会長のコメント・・・ご苦勞様です。素晴らしかったです。初めて体験するという皆さんがあれほど、たくさん参加してくれるとは思いませんでした。若い会員の指導や補助などの協力もあり、大変講評でした。)

リズムなぎなた演武の様子(次ページに掲載)



いしだ丘保育園 (5歳児8名 4歳児17名)

笠原先生のご指導のもと、週1回なぎなたの稽古に励んでいます。今日は、HIROの曲に合わせて元気いっぱいなぎなたを披露します。ドキドキしていますが、応援よろしくお願いします。



与那原町なぎなたスポーツ少年団
(園児3名、小学生14名、計17名)

部員皆で、曲の候補を出し合い、曲を選びました。泉さやかさん、ほのかさん、大木ひかりさんや初子先が完成するまで、応援してくれました。
部員それぞれ、なぎなたの見せ場があります。夏の元気をを感じる曲に負けないような、「えいっ!」と皆でそろって元気よく構えるところもあります。日頃、お姉ちゃんやお兄ちゃんのなぎなたの稽古を見ている2歳児の面うちも見所です。

西原なぎなたクラブ
(小学生8名、中学生1名 計8名)



西原なぎなたクラブは、「みんながヒーロー」をモットーに、小学2年生年から中学生までの9名で活動しています。
なぎなたを初めて間もないメンバーもあり、経験に応じて、少し難しい動きにもチャレンジしています。高学年が行う掛け合いでは、6本目をアレンジ。相手の呼吸に合わせて攻める、抜くの動きを取り入れました。また、しかけ・応じの際の隊形移動も工夫しています。今日は、心を一つにみんながヒーローになれるように一生懸命頑張ります。



西原東中学校 (1年生8名、2年生1名 計9名)

今日は、GENJIという曲に合わせて、リズムなぎなたを披露します。練習では、「タイミングが合うか」や「ダイナミックで元気な演技にするにはどうしたらよいか」をみんなで話し合いながら、頑張ってきました。二刀流や掛け合いなど、決まった時には、ぜひ拍手をお願いします。



与那原中学校(1年4名2年3名 計7名)

リズムとはらいの音が合うように意識しました。サビはもともとあった振付に似ているものにして、統一感を持たせました。様々な体系を取り入れ、見ている人が飽きないように楽しめるようにしました。